

155. 家庭菜園 奮闘記！

技術戦略部 調査役（土木・建築） 高橋光明

そろそろ梅雨が明けると、ナスやトマトなどの夏野菜が彩り始める頃。

ここ数年、休日は家庭菜園に励んでいます。もとは父が家の小さな庭で細々と趣味がてら行っていたのですが、流石に歳ということもあり、いつのまにか代替わり？

初めは収穫からスタートし、次に種を撒くこと…と興味本位で始まった家庭菜園ですが、真剣に取り組みだすとキリがない。しかも体力のみならず、かなり頭を使う。

まず、「土づくり」。夏でも冬でも定期的に土を掘り返して土の中に空気を入れたり働かせておかないと種が上手く発芽しない。要は布団を定期的に干すようなモノ。

次に肥料…これも、種蒔きの1～2週間前に肥料をまいて土地に慣らす必要あり。肥料も有機肥料から化成肥料から油粕から、石灰だの苦土だの、培養土だの腐葉土だの…大切なのは、チッ素・リン酸・カリ。

また、土地のどこに野菜を植えるか…これは、設計で建築の平面を考えていくような感じ。さらに、連作障害なるモノがあり、ナス・トマト・ピーマンなど「ナス科」を一度植えるとナス科は同じ個所に4年は植えることができない、と。

気づいたのは、これらの野菜は畑の1/4の面積しか作れない…

野菜を育てる場所を決め、土づくりを行い、しかるべくタイミングで種を撒くのですが、2～3週間程度の種を撒くタイミングを外すと見事に芽は出てこない。さもなくば、実が小さすぎたりする。天候にも十分注意。また、収穫するタイミングを考えて種まかないと、他の野菜との収穫が追い付かない（涙）

種まいて芽が出てきたとして、この瞬間は嬉しいのですが、嬉しいことの後には悲しいことが始まるモノ。雑草と害虫と水との奮闘…インセクトや鳥…朝、芽が根本から喰いちぎられていたり、無残にも引っこ抜かれていたりすると、凄く悲しい（涙）

そうこうして実っても、全てが食べられるものでもなく生産率は7割程度。また、全てが全て美味しければ、そこも何とやらで、何か味が足りない…と感じた際など、涙・ナミダ（大概、昆虫が原因ですね）。といってもやはり感動モノです（笑）

さて、下水の話…

肥料を色々試していると、牛糞や鶏糞など有機肥料は多々あるものの、江戸時代のように下水汚泥の肥料はどうなのだろう…と素朴な疑問。沖縄の下水処理場を見学させて頂き、汚泥肥料を作っている現場にも伺う機会を得ました。

汚泥肥料は他の肥料に比べ野菜がよく育つようで、隣の畑が青く見えると、それに見習いたくもなるように地域に徐々に広がっていった…といった説明を受けました。

ボクも、隣の畑に青く見せたく、いずれは試してみたい…と思った所存です。